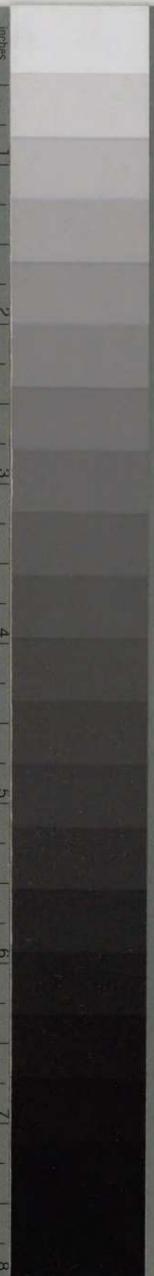


# Kodak Gray Scale

C Y M

© Kodak, 2007 TM: Kodak

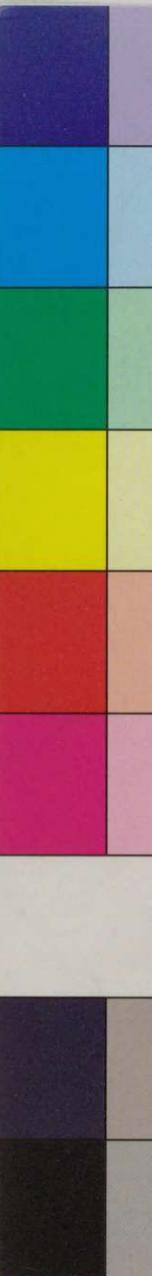
A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19



## Kodak Color Control Patches

Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black

© Kodak, 2007 TM: Kodak



100 200

733

296

大阪府産業部 賀陽課発行

事変の上海商工業に及ぼせる

影響と本邦品の将来

733-296



1200501590246



十二年十二月二十三日

(代 謄 畫)

事變の上海商工業に及ぼせる影響と本邦品の將來

大阪市産業部貿易課

733  
296



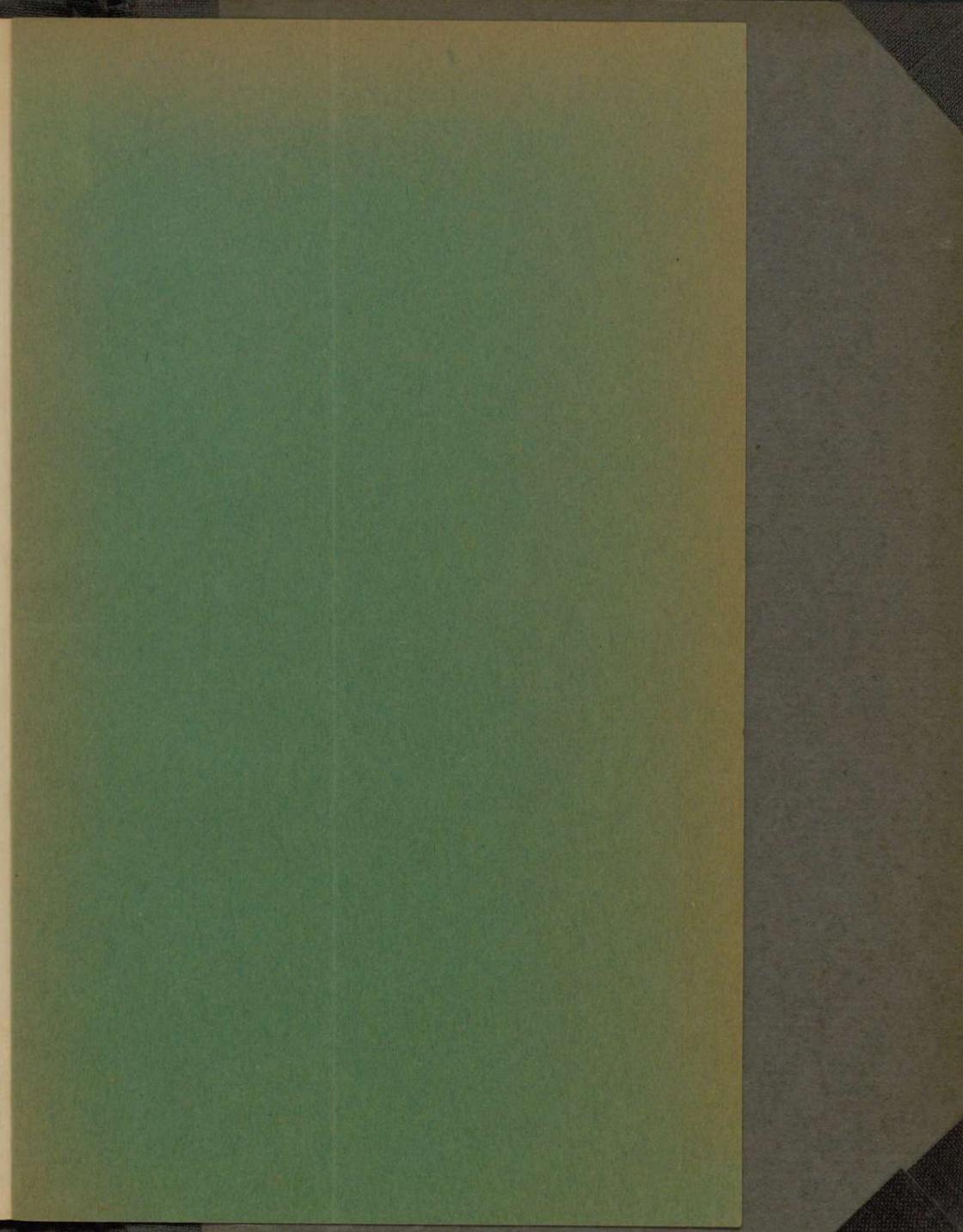
は し が き

發行所寄贈本



蘆溝橋事件を機転とする日支の軍事的衝突は遂に八月十三日に至つて上海に迄波及し、支那空軍の爆弾  
は家華なカセイ・ホテルやパレス・ホテルに遠慮なく落下し、世界の人々は今更ながら驚愕の目を以て上  
海を眺る日支交戦の推移を注視した。爾後の皇軍の大勝に至る迄の経過は刻々の諸新聞紙の報道によつて上  
知じるゝ通りであるが、支那商業經濟界の中心地たる上海が戰闘行為の繼續によつて蒙つた打撃は實に甚  
大なるものがあつた。

本記述は本市上海貿易調査所が資料の不足に悩みつゝも戰火の餘燼尚去りやらぬ現地から、今次の事變  
がその商工業界に及ぼせる影響を調査し、併せて本邦製品の上海市場に於ける將來性を報告せるものであ  
る。治安の恢復を見たとは云へ尙日支兩國が交戦狀態にある現狀に於てこの種の資料は誠に得難きもので  
あり、且つ業界に裨益する所渺からざるべく、敢て茲に印刷に附した次第である。



目 次

一、華商工場破損狀況

二、本邦品の賣行見込

イ、概況

ロ、上海並に背後地の購買力激減

ハ、交通網の斷絕

三、結語

二

三

四

五

六

七

一、華商工場破損狀況

上海は支那最大の工業中心地として知られて居る。事實上海がこの國の經濟生活に於て占むる地位は極めて重要なものであつて、一九三四年、工場法の規定に該當する全國工場數の半分は上海で占めた。即ち全國工場數二千四百三十五の中一千二百は上海所在のもので、明に工業中心地としての上海の地位を示してゐる。またこれを十五の工業部門に大別し、更にそれを百五十の業別に細別するに、他の都市に於ては僅に三、四の部門、二三十の業別しか存在しなかつたが、上海には百五十の業種の殆ど凡てが存在した。斯くの如く工業の種類の多様さに於ても亦他の都市は上海とは比すべくもなかつた。更に紡績、煙草、製粉、製絲等々の主要工業に就て見るに之等の工場の多數は上海に集中して居る。例へば全國紡績工場數百三十六の中、六十四、同煙草工場六十の中、四千六工場が上海にある。又新式工業の近代化されたものを比較するに、全國の工場の中上海は四〇%を占め、工場勞働者は全國の四三%，工業年產額は全支の約五〇%を占めてゐるのである。(以上はD. K. Lien(劉大鈞) The Growth and Industrialization of Shanghai P. 13)

次に上海の工業地帶の分布狀況を示せば、次の如くである。

▼上海市工場分布狀況 (一九三六年上海市年鑑所載)

地區別	工場數	百分比
共同租界	五五七	三三·〇二

合	計	一、六八七	一〇〇.〇〇
佛	租界	二五一	一四・八八
開	北	五七四	三四・〇二
浦	市	一八八	一一・一四
南	東	一一七	六・九四

即ち右表に據れば、共同、佛兩租界に約七四・八%，支那側行政地區に約五一・三%の割合で工場が分布して居る。而も今次事變の工場に及ぼせる被害程度を觀るに當つて特に注意すべき事は、戰禍の最も激甚なりし開北のみにて三五%を占め、又三三・〇二%を占める共同租界に於ても、その大半はこれ亦激戦の展開されたる楊樹浦その他の東部區域に集中し、残りの僅少のものが、西部區域に存在せしに過ぎざりし事である。

最初北支に於て勃發せし今次事變が、日本當局の不擴大方針にも拘らず逐日惡化の一途を辿り、遂に上海に於ても戰鬪が開始されるに至り、それと同時に全市の工場は工人の離滬、動力の中斷、原料の杜絶等に因り、その殆んどが操業を停止せざるを得なかつた。而もその後戰鬪行爲の進展に伴れて、支那人居住區域は全面的に兵禍を蒙り、少からざる部分が灰燼に歸するに至つた。従つて上海工業界に於ても暫に操業停止乃至短縮、取引不能その他による莫大の打撃を蒙つたのみならず、所謂直接的破壊によつて更にその打撃を致命的にされた。

上海の工業生產力の中、完全に破壊されたと目すべきものに就て、極めて大擗みに考察すれば、前掲の工場分布狀況表に據り先づ閻北の三四・〇二%，南市の一ー・一四%は全滅とは言ひ得ぬながらも、その大部分が破

壊されてゐやう。次に共同租界に於ては、滬西に存在する少數のものを除き、楊樹浦その他の東部一帶の工場地帯が同様の運命下に置かれたと思はれる。浦東に於ては焼失區域その他の事情の不明なる今、大略の推定すらも不可能であるが、僅少ならざる損害を蒙つて居ることは間違ひない。

以上を綜合するに、戰鬪地區にある閻北、南市及び滬東一帶の工場、換言すれば上海工業生產力の大約七六%は完全に操業を停止し、而もその大部分は破壊し去られたものと考へられる。

實業部の命令に據り、上海市社會局が各工場の報告に基き作成した統計によれば戰前の工場數五千二百五十五軒に對し、被害工場二千九百九十八軒、被害見積額五億六千四百五十三萬五千二百九十七元に達し、被害工場は南市三〇%，閻北一〇〇%，特一區七〇%，同鄉五〇%，特二區零となつて居る。併しこの被害統計は南市陥落前に作製されたもので、南市支那軍も既に全滅した今日では同區に在る工場二千二百七十二軒の被害を一〇〇%とすれば、上海の工場被害見積は八億元以上の巨額に達するものと支那側では見込んで居る。

十一月一日以前に於ける資本金二十萬元以上の支那人工場の被害は次の通りである。(上海市商會調查)

工場名	被害見積額
三一印刷公司	五八〇,二二二元
公記電池廠	二二〇,〇〇〇"
華成帆布廠	四九八,八九七"
上海造紙廠	五〇,〇〇〇"
大東煙草公司	四二〇,二二九"

經 縰 絲 廠	二〇〇,〇〇〇"
民 生 紡 織 公 司	八二四,〇〇〇"
美 亞 織 綢 廠	一、二五一,〇〇〇"
美 豐 織 綢 廠	六四〇,〇〇〇"
華 安 頭 料 化 學 廠	一〇三,七八一"
協 來 機 器 染 廠	三〇〇,〇〇〇"
申 豊 棉 織 漂 染 廠	二五八,五一四"
恒 豐 絲 廠	一四七,五八〇"
天 一 味 母 廠	一七四,七〇一"
中國福新煙公司	二三七,四〇〇"
大 成 絲 廠	八六,八五〇"
聲 沈 絲 廠	八四,五〇〇"
興 業 磁 磚 公 司	一五〇,〇〇〇"
協 源 昌 皮 廠	二〇二,七〇〇"
立 德 油 廠	三〇〇,〇〇〇"
恒 興 泰 油 廠	二二,一二五"
長 德 油 廠	三七,三六〇"
大 有 餘 油 廠	一,三〇〇"

南 錦 鋼 廠  
合 計

三五〇,〇〇〇"  
七、一三一、二四九"

【註】以上は南滿洲鐵道株式會社上海事務所發行の上海滿鐵季刊第一年第三號に據る所多し

## 二、本邦品の賣行見込

### イ、概 况

既述の如く當地華人工場の殆んど全部は潰滅し、邦人工場亦紛續を始め各種工場にして破壊されしもの夥しく而も殘存工場の殆んど全部は事變勃發以來休業を餘儀なくされ、租界當局、關係方面に於てこれが再開に懸命の努力を拂ひつゝあるにも拘らず、未だに操業開始の見込全然立たざる狀態である。従つて當地生産品が殆んど其の姿を消すに至りし爲め、本邦品がこれに代り近き將來大いに輸入されるものと一應考へることが出来るのである。筆者の如きも戰局の一段落と共に汎く各般の雜貨及び綿布類が少量乍ら一事變前當市場に於ける本邦製雜貨及び普通綿製品は全滅と迄は行かずとも洵に氣息奄々たるものありし爲め事變前に比してより多量に——輸入されるものと考へて居り、現に當地華商にしてセロファン、別珍、其の他本邦品を輸入したき希望を有するものも出て來てゐる。乍併、今事變による上海及び奥地の購買力の激減及び上海・奥地間の交通線の斷絶乃至は破損等の事實を考慮するとき、近き將來に於て當上海港が從前の如き大商埠地として、本邦品を旺に輸入するであらうとは思はれない。

尙参考のため當地工場の操業状態に就て見るに、十月末現在に於ける上海共同租界及び越界區域内に於ける操業工場は約七十工場を算し、その内名稱判明、規模稍々大なるものは次表(表一)の示すが如く三十五工場に及んでゐる。勿論これらとても原料難、販路縮少のため何れも操短を行つてゐる模様である。

(表一) ▼上海共同租界及越界區域内操業工場

(一九二一年十月末日現在)

工場名	國籍	所在地	資本金	工人數	規模	製品
			(單位千弗)	常時現在就業人		
申新第一紡織廠	(支)	白利南路二七三號	三、四〇〇	三、九〇〇以上	三、四六七錘、織機一、三七臺	綿糸布
申新第二紡織廠	"	宜昌路一四號	三、三〇〇	二、九〇〇	三、七七錘、撚二、九〇錘	綿糸
申新第八紡織廠	"	白利南路二七三號	三、〇〇〇	二、一三	三、四〇〇錘	綿糸
申新第九紡織廠	"	白利南路二七三號	二、〇〇〇	二、九〇〇	三、一〇〇錘	綿糸
一廠	新裕紡織公司第	西蘇州路三五號	一、五〇〇	一、五〇〇	六、三〇〇錘、撚二、五〇〇錘	綿糸
二廠	新裕紡織公司第	勞物生路八號	一、五〇〇	一、五〇〇	六、七七錘、撚二、九〇錘	綿糸
三廠	永安紡織公司第	西蘇州路三五號	一、五〇〇	一、五〇〇	六、三〇〇錘、撚二、五〇〇錘	綿糸
統益紡織公司	"	莫干山路三號	一、七〇〇	一、七〇〇	六、三〇〇錘、撚二、五〇〇錘、織機五〇臺	綿糸
		麥根路三號	一、七〇〇	一、七〇〇	六、三〇〇錘、撚二、五〇〇錘、織機五〇臺	綿糸
		麥根路三號	一、七〇〇	一、七〇〇	六、三〇〇錘、撚二、五〇〇錘、織機五〇臺	綿糸
		莫干山路三號	一、七〇〇	一、七〇〇	六、三〇〇錘、撚二、五〇〇錘、織機五〇臺	綿糸
二	他の工場を含み 二、八〇〇	海防路三號	一〇〇	一〇〇	二四、五六六錘、撚六、〇〇〇錘、織機四四臺	綿糸
三	一〇〇以下	小沙渡路尾三號	一〇〇	一〇〇	四、九七七錘、撚二、六三錘	綿糸
四	年產二七、〇〇〇反、織機二〇臺	Yah Loong絲廠	一〇〇	一〇〇	四、七三三錘、撚二、六三錘	綿糸
五	綱織物	Meis Vins 繩廠	一〇〇	一〇〇	三〇〇錠	綿糸
六	昌平路三號	Yah Loong絲廠	八九號	八九號	一〇〇以上	綿糸
七	膠州路九三號	成絲廠	一〇〇	一〇〇	一〇〇以下	綿糸
八	美亞織綢廠第四	Yooong Zung 雲	一〇〇	一〇〇	年取引額七、八十萬元	綿糸
九	綱織廠	普益經緝公司	一〇〇	一〇〇	生絲	綿糸
十	同益絲廠	大同紗廠	一〇〇	一〇〇	生絲	綿糸
十一	同益絲廠	鴻豐紗廠	一〇〇	一〇〇	生絲	綿糸
十二	同益絲廠	赫德路二〇三號	一〇〇	一〇〇	生絲	綿糸
十三	同益絲廠	檳榔路三三號	一〇〇	一〇〇	生絲	綿糸
十四	怡和糸廠	(支)	一〇〇	一〇〇	生絲	綿糸
十五	怡和糸廠	(英)	一〇〇	一〇〇	生絲	綿糸
十六	怡和糸廠	勞勃生路二五三號	一〇〇	一〇〇	生絲	綿糸
十七	怡和糸廠	成都路二三三號	一〇〇	一〇〇	生絲	綿糸
十八	怡和糸廠	阿拉白司脫路二三三號	一〇〇	一〇〇	生絲	綿糸

中法大藥房工廠	(支)	大西路一七〇號	五百	二八 二〇以下	營業高年八〇〇,〇〇〇元
上海啤酒公司	(英)	宜昌路三三號	(海 關兩 六〇〇)	三〇以上	日產二,三〇〇箱
中華書局印刷工 場	(支)	靜安寺路一六六號	(單 位 千 二,〇〇〇)	//	印刷機二〇〇臺以上
					印刷製本

(註) ▲印は十一月に入り操業不能となる

口、上海並に背後地の購買力激減

第一次上海事變による當地の損害は大略十五億元に上ると稱せられてゐるが、今事變による損失は工場の被害のみにても八億元に及んでゐるので一般經濟界の蒙れる損害は蓋し想像に餘りある巨額に達するであらう。事變勃發以來當地の商工業は未だに假死狀態の儘であり、全上海市民の殆んど全部は、失業狀態に陥つてゐる。彼等の多くは過去の苦へによりて露命をつないで居るのであるが、饑餓と寒氣との爲めに死の一歩手前を彷徨している者の數は數十萬と傳へられ慘澹たる有様である。加之、富裕階級乃至は多少餘裕のある中產階級は香港・マニラ、南支方面へ避難し、然らざる者と雖も奥地へ奥地へと戰禍をさけて遁入しつゝある有様にて事變勃發以來その數は四十萬に上ると稱せられてゐる。従つて現在當上海市の有する購買力は昔日に比して雲泥の相違あるのは明白である。而も近き將來に於て當地の購買力が容易に原狀に復すとは思はれぬ。

上海奥地の購買力亦同斷である。皇軍既に江蘇省の大部分浙江、安徽の一部を占領し、遠く漢口、重慶亦我が猛進を前にして戰慄しつゝある今日、長江下流地域即ち人口稠密、天產豊富なる支那の寶庫たる地方は今や荒涼た

る無人の地域と化し一切の經濟活動は其跡を絶つてゐる。従つて購買力の如きは問題とならぬ程度に慘減してゐる模様である。

長江上流地方は未だ直接的戰火にはさして見舞はれ居らざるも一般社會的、經濟的組織は準戰時態勢をとり、爲めに購買力の減殺著しく、現に漢口の如きは國都の遷移と共に軍事に忙殺されて一般經濟界は破綻に瀕してゐる由である。

#### 八、交通網の斷絶

當地上海は水路、公路及び鐵路による奥地との交通網は完備してゐたのであるが、今や皇軍の江南平野占領により、これらの交通線は全部皇軍の掌中に歸し、上海と奥地との交通は完全に遮斷されることとなつたのである。

即ち水路に就いて見るに大動脈なる長江は完全に咽喉を扼されて居り、江南の最重要水路たる黃浦江亦我掌中にあること周知の如くであるが、この外に我が勢力範圍内にある當地を中心とする水路にして重要なものは次の如くである。

- 一、蘇州河 蘇州—上海間
  - 二、蘇州より武進、丹陽經由鎮江に至るもの
  - 三、蘇州より平望、嘉興經由杭州に至るもの
  - 四、平望より湖州に至るもの
  - 五、丹陽より溧陽に至るもの
  - 六、楊子江より常熟經由蘇州河に達するもの
  - 七、太倉、劉河より崑山經由蘇州河に達するもの
  - 八、常熟より太倉、嘉定、南翔經由蘇州河に入るもの
  - 九、黃浦江上流より松江、青浦經由蘇州河に入るもの
- 次ぎに上海を中心とする鐵路は京滬、滬杭甬及び蘇嘉の三線があるが、これら三線は今や殆んど完全に吾掌中のものとして上海と各都邑との鐵道連絡は全然遮断されて終つてゐる。
- 更に公路に就いて見るに上海附近に於ける主要公路は次の如くであるが、これ亦完全に皇軍の勢力範圍下にある。
- 一、京滬路 南京、鎮江、武進、江陰、常熟、太倉、嘉定、南翔
  - 二、京閩路 南京、句容、溧陽、宜興
  - 三、滬杭路 上海、閔行、杭州
  - 四、蘇嘉路 蘇州、王江涇、嘉興
  - 五、蘇證路 江陰、無錫、蘇州
  - 六、宜常路 宜興、無錫、常熟
  - 七、上寶路 上海、吳淞、寶山
  - 八、滬大路 上海、大場鎮、羅店、劉河
  - 九、杭松支路 松江、楓涇
  - 一〇、嘉湖支路 平野、南潯
  - 一一、蘇滬支路 蘇州、崑山、南翔
  - 一二、崑太子路 崑山、太倉

由是觀之、上海を中心とする總ての江南交通網は今や完全に皇軍の掌中にある、交通は完全に遮斷されてゐるのである。加之、長江上流に於ては支那側自ら所々に於て水路封鎖を斷行して居り、公路、鐵道等も亦日支兩軍によつて甚しく破壊されてゐる。従つて假令戰鬪終熄し水、公、鐵路の自由通行が許可されるに至る日近きにありとするも、當地を中心とする交通網が復舊するには相當の年月を要するであらう。

### 三、結語

上海が再び大商埠地として更生し本邦品の旺盛なる輸入を見る日は果して何時のことであらうか。上海復興の時期如何は日支事變の繼續期間の如何に主として制約されるゝは明白である。當地復興の最大不可欠條件が事變の終結それ自體であることは何人も、亦異議なき所である。乍併、今回の事變によつて上海並に其の背後地の蒙つた損害は空前絶後のものと謂ふべく、購買力は極度に萎縮し、交通網は甚しく破壊され居る爲め、假令戰鬪終熄の日近きにありと假定するも、上海港が從前の繁榮を取り戻すには相當の期間を要するものと考へられる。而してこの事は事變が永びき支那側の蒙る損失が増加すればする程益々以て然りである。但し當地支那側工場が殆んど潰滅せる今日、從來土産品に壓倒されてゐた本邦品、就中雜貨類、一般綿布類が當市場にその姿を現す日は案外近きにあるべく、來春三四月頃或は遅くとも來年初秋には本邦製品が可成り輸入されるのではあるまいかと思はれる。乍併、勿論その金額數量は上海並にその近傍の限られたる人口、而も收入乏しく餘裕なき人々を顧客とするものであるから、昔日、即ち當地土着雜貨工業の頗る幼稚なりし第一次上海事變以前の時代に比し格段の相違があるに違ひない。如何なる種類の本邦品が有望なりやは次ぎに示せる諸表（表二、表三）即ち上海港の商品輸入狀あるに違ひない。

況並に華商工場の生產狀況によつて大體の見當はつき得ることと思はれる。

（表二）

#### ▼上海港重要商品輸入狀況

	本年上半期	昨年上半期
生 地 締 布	五、五〇、三五〇元	二、三〇、二七〇元
白、染 締 布	三、〇、三七〇	一、九〇、七三〇
捺 染 締 布	三〇、三三	二九、二九
雜 締 布	五三、二五	四二、六七
棉 花、綿 糸	一、三〇、八九	一、三〇、九九
雜 締 製 品	一九、九九	一九、九九
麻 類 及 同 製 品	六、〇、九九	六、〇、九九
羊 毛 及 同 製 品	三、三〇、九九	三、三〇、九九
絹 及 同 製 品（人絹を含む）	六、六〇、六六	二、七〇、一八六
金 屬 及 磷 石	六、六〇、六六	二、七〇、一八六
機 械 工 具	一、一〇、九九	一、一〇、九九
車 輛 船 舶	一、一〇、九九	一、一〇、九九
雜 金 屬 製 品	一、九、四、九九	一、九、四、九九
海 產 物	一、九、四、九九	一、九、四、九九

罐詰、乾物、動物產品	三、六七、六七七
穀物及穀粉	六、七〇、四六六
果實、種子、野菜	三、一九、〇二一
藥材及香料	二、三一、四六八
砂糖	二、五六、三三七
化學藥品	一、三六、九三三
染料塗料類	一、三六、九三三
油脂類及石鹼	一、三九、〇一七
書籍紙類及パルプ	一、三九、〇一七
皮革牛角類	一、三九、〇一七
木材(一般)	一、三九、〇一七
特殊木材簾幕等及同製品	一、三九、〇一七
石炭、護謨木炭、タル類	一、三九、〇一七
陶磁器、硝子	一、三九、〇一七
石、土及同製品	一、三九、〇一七
雜品	一、三九、〇一七
合計	一、三九、〇一七

(表三)

## ▼上海華商工場生產額 (一九三二年度)

種別	工場數	生産額
木材業 (製材、木製器具、木箱等)	一〇	二、一四〇、五三三元
家具製造業 (銅製家具、絨氈其他)	七	八六五、三五〇
金屬工業 (鐵管、精鍊業等)	二二	九八六、〇〇〇
機械製造業 (金属製品工業をも含む)	一六七	二一、八九八、七〇四
煉瓦、硝子類製造業	四四	八、〇二五、七七九
建築材料製造業	七	一、一一一、八〇〇
電氣水道業	三	七、九三〇、八一三
化學製品業 (磷、石鹼、染、塗料、藥品、化粧品等)	七八	二五、八六七、七三三
織物業 (廣く染色捺染業をも含む)	三九一	一九八、二一九、七五七
衣類製造業 (帽子、下着類、其他をも含む)	八九	一九、四六九、三一三
皮革、ゴム製品工業	五五	二〇、九八八、六五一
食料品、飲料品、煙草製造業	一四三	二〇五、四一五、二三三
製紙、製本、印刷業	一一四	三二、一三七、〇二三
教育用具、玩具、樂器、時計製造業	一八	一、七一九、一五二
雜工業	二二	二、六三一、五九九
總計	一一六	五五七、六九〇、七五四

而して本邦製雜貨類の上海市場確保が永續し得るや否やは當地土着工業の再起の能不能にもよること乍ら、主

として關稅問題に依存するものと見てよいのであるまい。關稅にして近き將來本邦品に有利なるべく改正さるゝならば、外國製品の勢力は大體に於て度外視して差支なき現狀故、相當長年月に亘つて本邦製雜貨の優位が保持されるであらう。

尙ほ上海港の全支貿易に占むる地位は從前に比し恐らくは幾分の低下を示すを免れないものと思はれる。蓋し奥地に對する北支諸港、及び香港の經濟的支配力は、前者は主として日本の意思により、後者は英支兩國の意思により、強化されるに違ひないからである。現に香港の如きは全支貿易が半減せる今日、九月の貿易は前月に比し一〇%、七月に比し二〇%の増加を示し、就中輸入に於ては八月に比し一六%、七月に比し二八%の著増を示してゐる。これは勿論日支事變、就中上海港封鎖による一時的の現象に過ぎないが、事變終熄後と雖も或程度迄上海の繁榮は香港に奪はれるものと想像される。尙ほ事變勃發以來の上海港の國別輸出入額は次表の如くであつて本邦品の輸入は流石に瀕してゐる。

(表  
四)

（輸入）		（輸出）	
最近の上海國別貿易額		（單位元）	
本年上半期	七月	八月	九月
空、二、八、九、九	二、三、三、二、六、五	三、七、三、一、九、七	三、五、八、一
英、美、六、九、三	九、空、一、九、七	三、〇、四、一、美、九	七、四、三、三、一
三、〇、九、七、〇、五	一、七、一、〇、一、美、一	二、三、一、美、一	一、七、一、美、六
美、一、〇、四、三、七	一、四、六、七、一、九	二、一、〇、四、一、美、一	一、七、一、美、六
美、一、〇、四、三、七	三、七、六、英、三	二、四、二、一、美、一	一、四、一、七、一、美、一
	英九、一、九、〇		

(表) 獨米英日輸出  
(五)

一九三七年上海月別貿易額

輪入額		輪出額	
上海	全支那	上海	全支那
四百六十七	七百三十二	八百一、三〇	一千四百零六
五百零五	八百一、三〇	五百一、三〇	一千一百一十五
六百三十九	九百八、九〇	六百三、三〇	一千一百一十一
七百零七	九百六、六六	七百一、三〇	一千一百一十一
六百二十九	九百一、一〇	七百一、三〇	一千一百一十一
六百二〇〇	一千一百一十七	八百一、八〇	一千一百一十一
七百三九	一千四百零五	八百一、三〇	一千一百一十一
二八二三	九百一、五〇	八百一、三〇	一千一百一十一
七百零七	九百一、一〇	七百一、三〇	一千一百一十一
八百六三	九百一、七八	七百一、三〇	一千一百一十一

(表六)

▼上海對外貿易累年表

(單位千元)

	輸入額	輸出額	總貿易額
	上海	上海	上海
一九三二年	全支那	全支那	全支那
一九三三年	七六、三九	三五、七五八	一、九七三、三九
一九三四年	七六、三九	三五、七五八	一、九七三、三九
一九三五年	一、三五、六四四	一、九七三、三九	一、九七三、三九
一九三六年	五七、六九四	五七、六九四	一、九七三、三九
	五五、一八二	五五、一八二	一、九七三、三九
	九四、一五四四	九四、一五四四	一、九七三、三九
	七〇、五七一	七〇、五七一	一、九七三、三九

以  
上

733  
296

